



西本 至志 (にしもと ちかし) 散田小 3年生

作品名：わらいボール

図 書：わらいボール

わらいボールは、ならい事で読んだ本の中で、一番好きな本です。

一年生のゆうやくんが、学校のらくがきから生まれた、らくがきにんじゃに、お手つだいをたのまれて、わらい声を集めるお話です。にんじゃは、きびしいしゅぎょうで、えがおをわすれてしまったからです。

おもしろかった所は、集めたわらい声が、ボールになって色がついていることです。元気なわらい声は赤、小さなわらい声は黄色、人をばかにするわらい声は暗いはい色で、竹づつに入るとすぐきえます。ぼくは、ばかにするのはいやな事だから、竹づつに入ってすぐにきえて、よかったと思いました。自分のわらい声は、人から見て何色かなと思いました。自分のわらいボールがほしいです。

一番心にのこったのは、らんぼうもののかいとくんが、自分からす直にあやまってきた所です。かいとくんとぶつかって、竹づつがこわれて、集めたわらいボールが教室にちらばってしまいました。かいとくんが、落ちていたわらいボールをひろうと、ボールが、「ふふふ。」と、やさしくわらいだして、かいとくんもつられて、やさしい顔になって、自分からあやまりました。なぜなら、かいとくんがひろったボールは、クラスでおとなしい女の子が、友だちにかこまれて、うれしそうにわらった時に集めたボールだったからです。ぼくは、かいとくんが赤や黄色じゃなくて、うれしい時の、さくら色のボールをひろったから、あやまってくれたと思います。うれしい気持ちやしあわせな気持ちは、人をす直にできると思いました。

もし、自分がわらいボールを持っていたら、おちこんでいる人にあげたいです。また、家族のたん生日にわらいボールを使って、朝から夜まで楽しみたいです。ほかのボールを作る事ができるなら、がんばるボールを作りたいです。にが手なしゅぎょうの時に、がんばる気持ちがわいてくるボールです。クラスみんなで使ったら、学校がもっと楽しくなると思います。

この本を読んで、えがおでいる事が大切だとかんじました。だから、えがおの人をふやしたいです。そのためには、友だちとなかよく遊びたいです。けんかになったら、何でけんかになったのか話し合っ、なかなかおりします。家では、お手つだいをして、家族を助けてえがおにしたいです。ぼくもえがおでいたいです。